

# [西徳寺鐘楼]見学レポート

資料1



資料2



資料3



資料4



資料5



資料6



資料7

鐘楼前に立つ松浦弘二





公益社団法人 東光山 西徳寺  
お寺に御用の方以外の 駐車ご遠慮下さい  
東光山 西徳寺

お寺に御用の方以外の  
駐車ご遠慮下さい  
東光山 西徳寺

お寺に御用の方以外の  
駐車ご遠慮下さい  
東光山 西徳寺



西徳寺が光明寺の末寺であることや三浦一族の和田義盛に由来する和田地蔵のことが書かれている

## 西徳寺

鎌倉の光明寺の末寺として、永禄三年（一五六〇）法譽順性上人により開かれました。

境内には、三浦一族の武将、和田義盛が出陣に際し、戦勝を祈願したと伝えられる「和田地蔵」が祀られています。

また、樹齢四百年以上の大きなイヌマキとビヤクシンの木があり、三浦半島の名木・古木五十選に紹介されています。

裏山には、義盛の剃刀塚や幕末期に江戸湾の防備のために、この地に来た会津藩士の墓十一基があり、中には白虎隊士の身内の墓もあります。

浦賀行政センター市民協働事業・浦賀探訪くわいぶ



会津藩士の墓

## 会津藩士の墓



日本の沿岸に、異国船が相次いで姿を現すようになりました。毎日のように、各地から早馬が江戸城めざして駆け上ります。民衆の心も不安に揺れ動いてきました。

文化七年（一八一〇）二月二十六日、幕府は、外国船の来航に備え、台場の建造を白河藩と会津藩に命じます。民衆の不安を取り除くこともねらいの一つでした。白河藩は千葉沿岸を、会津藩は三浦半島沿岸を警備することになりました。

会津藩は、走水、浦賀、城ヶ島の三か所に台場を造ると同時に、浦賀の観音崎と平根山、それに三崎の北条山に陣屋を設けて外国船に備えました。

会津から、はるばると、この見知らぬ任地に大勢の武士がやってきました。ある者は単身で、また、ある者は家族をひきつれて任務につきました。それらの人々の子弟を教育するため、三崎に集義館を、観音崎に養正館という藩の学校を建てました。養正館には、約四十名の生徒がいたと記録されています。文政三年（一八一〇）十二月二十八日、沿岸警備の任務が、会津藩から浦賀奉行に移りました。

しかし、その十年間に、病没した藩士やその家族四十八名が、走水の円照寺（日蓮宗）、鴨居地区腰渡の能満寺（曹洞宗）やここ西徳寺（浄土宗）の墓地に葬られました。

厳しい生活であったことがうかがえます。毎年秋の彼岸には、会津在住の子孫や市内の県人会の有志が、この西徳寺を訪れて法要を営んでいます。

横須賀市

大岡實建築研究所では山門も設計しているが未だに未着工のようである



本堂













庫裡



正面が鐘楼







屋根は振れ隅にしているという







他の作品に比べて軒反りの勾配がかなり急である





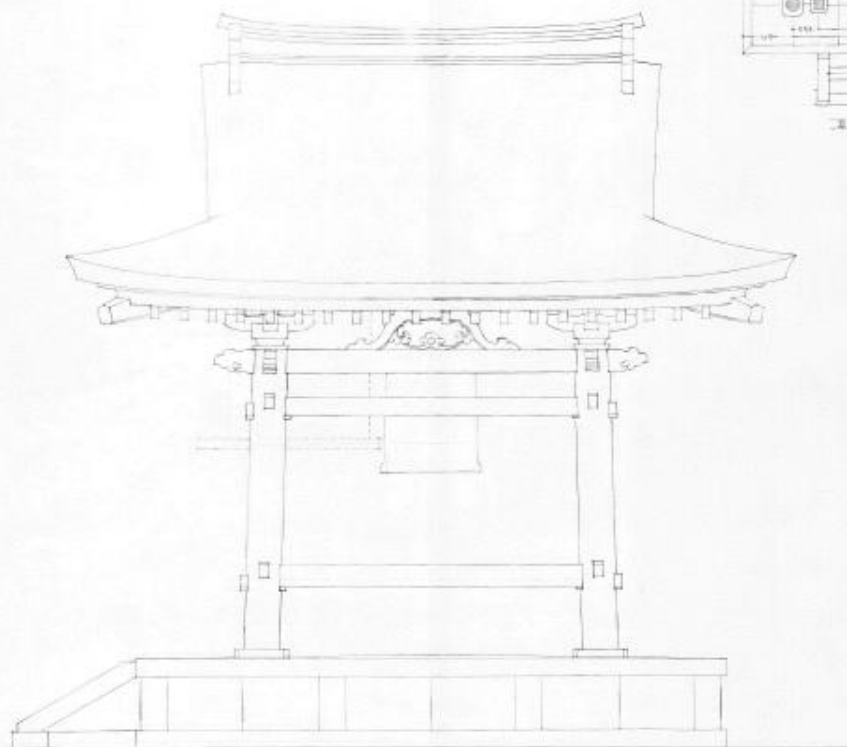




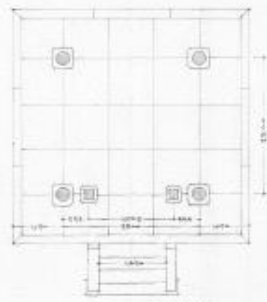


あまり感心しない石の割り付け





西面

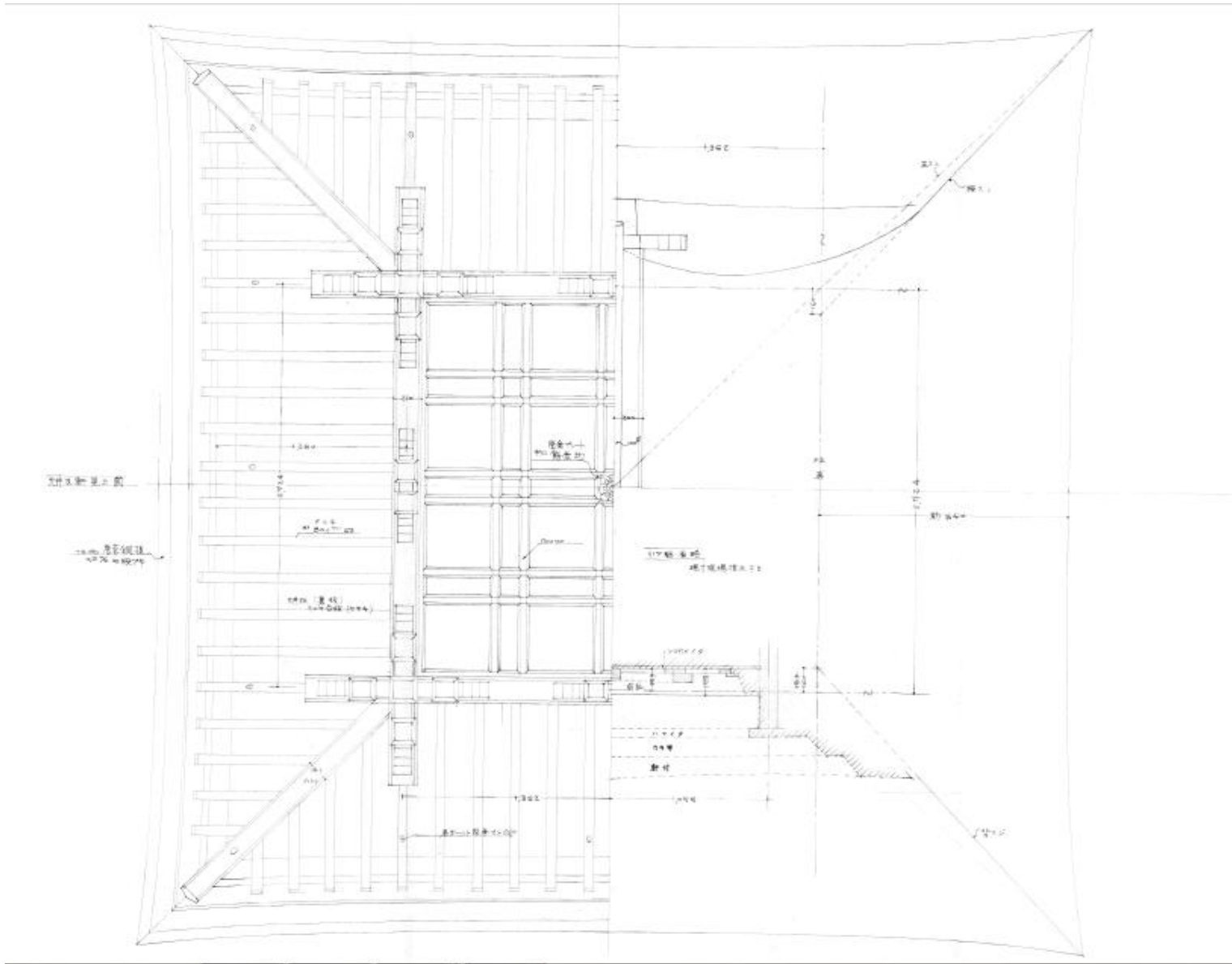


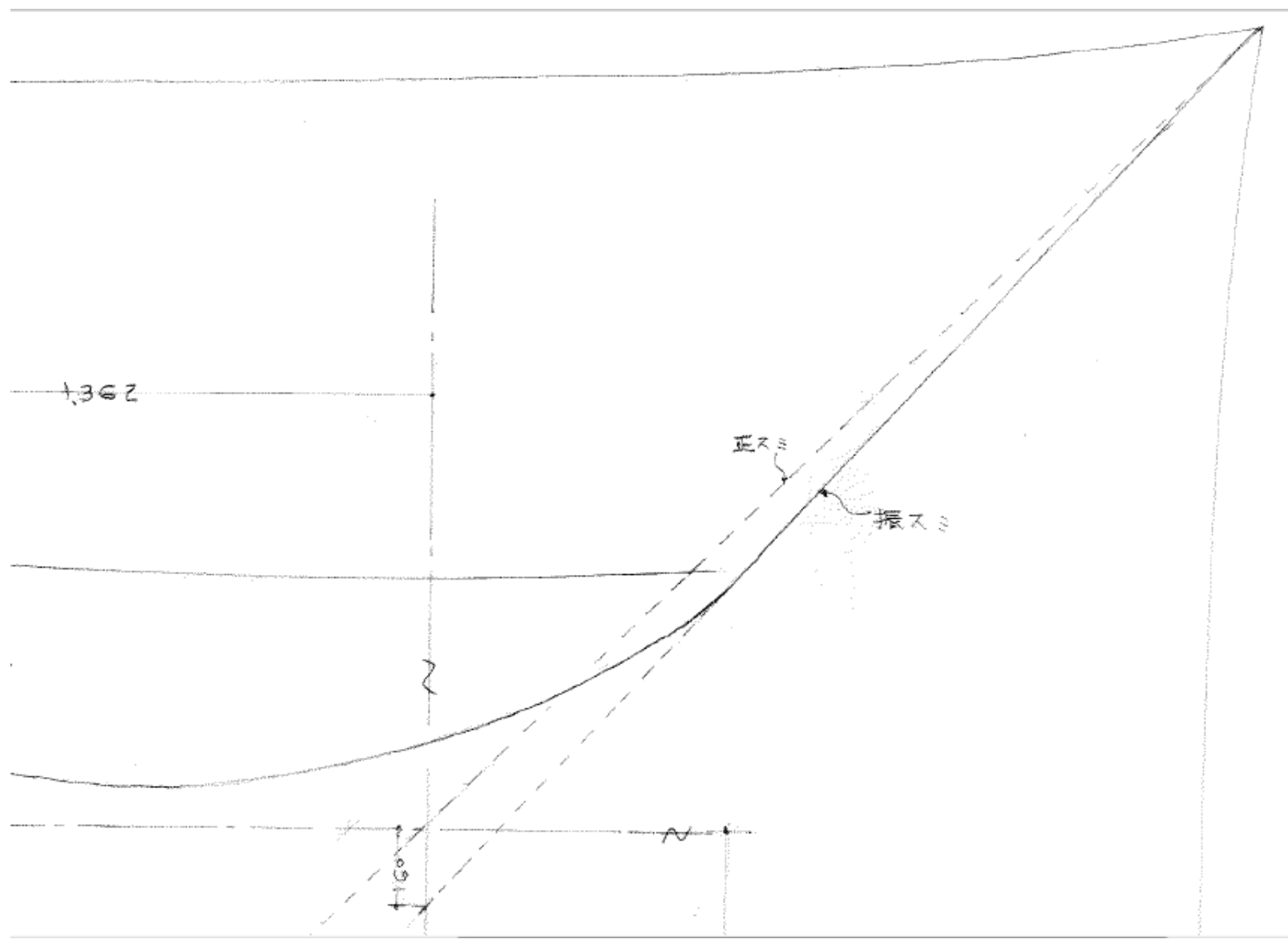
東面

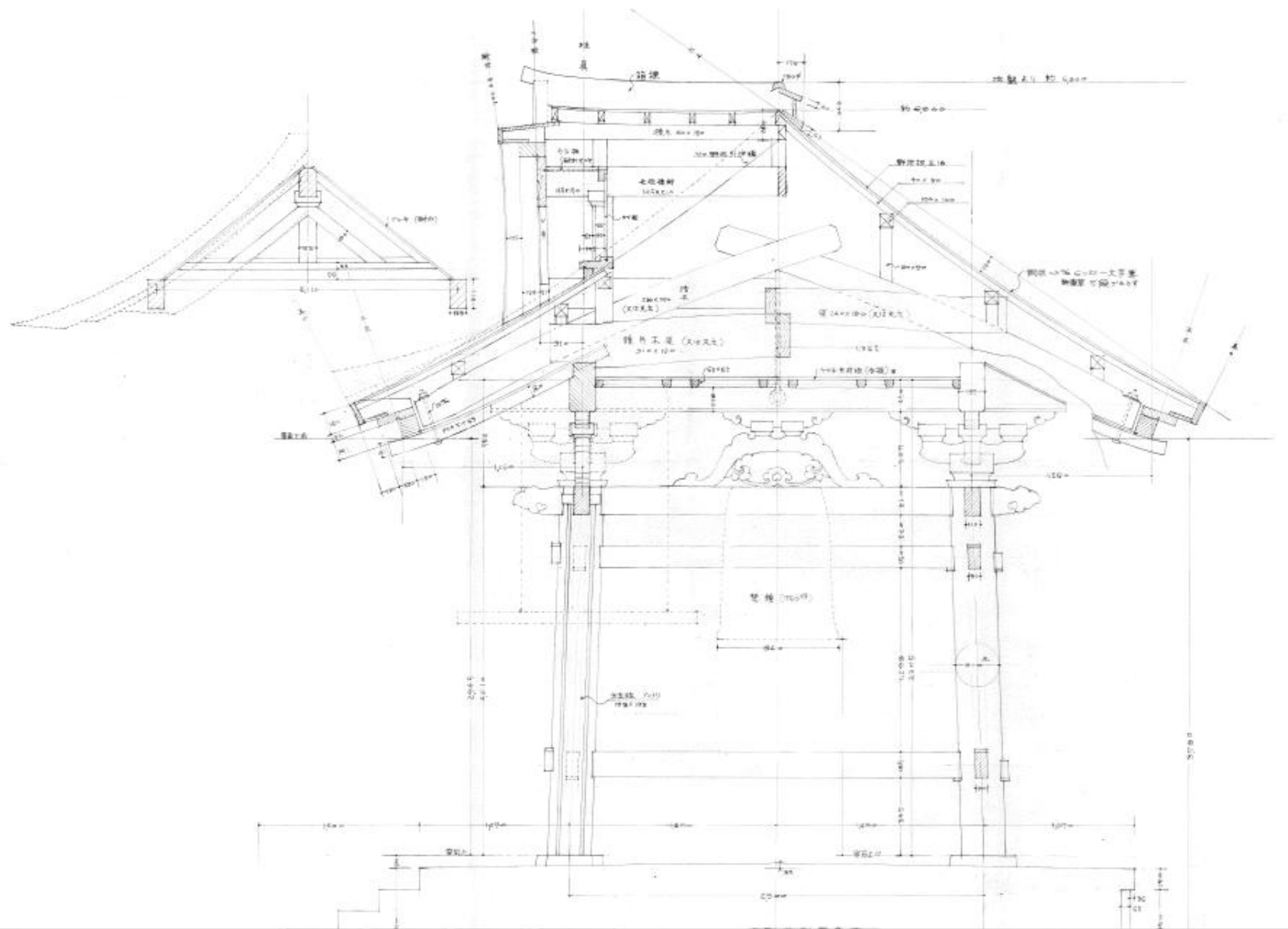


南面

西德寺鐘樓繪圖  
 設計者 李樹德、李樹德  
 繪圖者 李樹德  
 比例 1:20  
 大興實業公司  
 一號樓房內  
 一九五二年一月









三浦一族の和田義盛に由来する和田地藏堂







さまざまな供養塔



その中でも唐破風は珍しい



石造ではあるが、これが造られた当時の唐破風のデザインの傾向を示す貴重な史料である



ちなみに宝暦14年は1764年である



これは燈籠





樹齢400年以上の大きなイヌマキとビャクシンで三浦半島の名木・古木50選に紹介されているとのこと





かまくらと三浦半島の古木・名木50選

# ビャクシン<イブキ>

(ヒノキ科)

(財) かながわドラストみどり財団  
三浦半島地区推進協議会



境内下は鴨居港が広がる磯の香りが漂う街であった



信誠寺へ移動する道すがらこんな建物もあった(日本人はこういうデザインが根っから好きなのか?)



年月	西暦	工事名	所在地	工事期間	助手	構造設計	施工	構造種別
平成4年	1992	西徳寺 鐘楼	神奈川県 横須賀市	平成4年	松浦弘二・隆	松浦弘二	鈴木社寺工務店	木造

(意匠設計共)

なお、山門も同時に設計しているが未だに未着工のようである









































































































